

## 「大嘗祭」に思う

ローズ・シー

「現代に生きるキリスト者」と題する小冊子ができた。副題に～天皇制と「即位の礼」「大嘗祭」と唯一信仰～とある。(教団中部教区愛知西地区委員会刊)目次は以下のとおり。

- ①「大嘗祭に向けての教会の姿勢」1990年1月15日 戸村政博(靖国神社問題委員長)
- ②「日本国憲法と天皇」1990年1月28日 森英樹(名古屋大学教授)
- ③「象徴天皇制の現段階をどう見るか」1990年2月11日 中島三千男(神奈川大学助教授)

これらは1990年秋の「即位の礼」「大嘗祭」を視野に置いて持たれた講演会であったことがわかる。29年前のものである。キリスト教界は1960年代半ばから靖国神社国営化反対運動に取り組んだ。他宗教とも連携して国営化法案を廃案にすることができた。1979年に「元号法」が制定された。キリスト教界は天皇の時間支配を拒み「元号法」に反対した。「元号法」の制定後、ほとんどのキリスト教会が西暦のみを使用するようになった。それまでは西暦と元号を併記することが多かったにもかかわらず。それ以後役所で元号表記を求められると「西暦ではなぜいけないのか」とやり取りすることもあった。

1990年「大嘗祭」にたいしてはヤスクニ運動の流れもあって、各教派の反対運動があった。第一にキリスト教会が戦前、戦中の神社参拝や天皇制によって苦しんだ記憶があったこと。第二は教会が積極的にアジア侵略戦争に加担してしまったという罪責告白である。戦後50年を迎えた1995年前後に多くの教派が戦争責任告白を公にしている。その必然として宗教的儀式である「大嘗祭」を国が行うことに反対した声明が各派から数多く出された。1986年11月13日の「大嘗祭についての日本基督教団総会の声明」からはじまり、1990年の日本メソヂスト・キリスト教会「私たちは、大嘗祭を国が行うことに反対します」まで、30を越える声明が発表されている。

昭和天皇の X ディやその後が続く「即位の礼」「大嘗祭」に対抗し活躍した「日本基督教団靖国・天皇制問題情報センター通信」は、30年後の現在「日本基督教団」の冠なしに「靖国・天皇制情報センター通信」として活動を続けている。そこから出された以下の声明に私は同意する。

「靖国・天皇制問題情報センター声明」

私たちは「天皇の代替わり」に反対すると共に天皇制支配構造の廃棄を求めます

2016年8月8日、「陛下のお気持ち」なる天皇明仁のビデオメッセージが公表され、にわかに「生前退位」という言葉が世間をにぎわす事となりました。現安倍政権の本音と思惑はともかくとして、表面的には現天皇の退位ならびに現皇太子の新天皇即位に向けて準備がはじめられました。現時点において、2019年4月30日に現天皇の退位、翌5月1日に新天皇の即位がなされようとしており、即位に伴う皇室諸儀式を「国事行為」とし国費を投入する事も既定路線とされています。私たちは、これら一連の動き、天皇の存在と天皇制の存続を既定のものとする暴力的な情勢を深く憂慮すると共に、「天皇の代替わり」への反対の意思はもとより近代日本が保持してきた天皇制支配構造の廃棄を強く求め訴えます。

8.8 メッセージは、「自らの年齢と健康状態を考える時、これ以上の天皇としての務めを果たす事は厳しい」との訴えとして受け止められたわけですが、そこに込められた本音は「この国における天皇の存在意義」の提示と共にその「天皇観」の固定化、永続化にあったと言えます。8.8 メッセージは「国民の安寧、幸せのために祈る事が、天皇の務め、象徴としての務めである」と繰り返しましたが、これは人間としての一般的感情や一般的行為としての「祈り」を意味してはおらず、文字通り皇室神道における「天皇としての務め」であり純粋に宗教的行為です。現在に至るまで宮中祭祀という形で種々の皇室神道儀式は執り行われていますが、これらの儀式の意味するところは「国のため、国民のために繁栄や幸福を祈る」事にあり、その儀礼における最高祭司こそが天皇です。仮に、8.8 メッセージにおいて語られた「公務」と称する実際的な行動(例えば被災地訪問等)の遂行が困難になったというのであれば、現行憲法に定めのある(それ自体を肯定するわけではありませんが)「摂政」を置く事で解決するはずですが。しかしながら、8.8 メッセージはその点について明確に否定(拒絶)しており、ここに天皇明仁の「天皇とは国家の祭司(あるいは「守り神」)」であるとの「天皇観」を見ることが出来ます。この天皇観の根底にあるものは(天皇明仁がその点に自覚的か無自覚的かはともかくとして)、この国に生きる者は「天皇によって生かされている」という思想あるいは幻想です。そして、近代日本において、明治以降の政府がこの思想、幻想を受容させていく事に暴力的なまでに精力的であったのは、その天皇の存在を背景とした権力・政権の支配と統治を容